

# Green Legacy Hiroshima



長年、広島を街を散策しているうちに、私たちは広島の特別な住人—原爆を生き延びた樹木とその子孫の木の回復力、寛大さ、美しさ、そして、とりわけ、それらの樹木が持つ大切な意義を知るようになりました。核の悲劇の生存者である被爆樹木は、ここ広島に住む人々や広島を訪れる人々に対してだけでなく全人類に対して重要なメッセージを伝えています。グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブは、これらの樹木を守り、その存在と意味とを広く知らせるために立ち上げられました。世界中の多くのパートナーがこのイニシアティブに参加し、それぞれの国で、広島と広島の平和のメッセージと広島の緑の遺産を積極的に伝える大使になってくださることを祈念します。

グリーン・レガシー・ヒロシマ チーム



unitar

United Nations Institute for Training and Research



## 背景

緑豊かな活気あふれる街となった広島は、平和記念資料館と平和公園で有名なだけではなく、樹木の豊富さでも知られています。爆心地からおよそ2キロ以内の55箇所にある約170本の樹木が、広島市によって正式に被爆した樹木として登録されています。そして、被爆者と同じように、広島の原因を生き抜いた樹木もまた、核兵器によって引き起こされた耐えがたい惨状の証人です。広島市や樹木医や市民団体や多くの市民の手によって、何年にもわたり慈しみをもって手入れをされたこれらの樹木には、樹木名と、被爆樹木であることを示すプレートがつけられています。

1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾により、広島市の中心部は灰燼に帰し、放射能の砂漠となりました。壊滅的な打撃を受けた広島には、いかなる生命も生きられないと思われました。75年間は草木も育たないだろうと考えた人も多く、市全体を別の場所で再建しようという話し合いもされました。そのような状況の中、原爆投下からほんの数か月後に、荒廃した風景の中で新しい芽吹きを目にした人々は、力強いメッセージを感じました。その息吹は広島を復興させるために懸命に努力をしていた被爆者を勇気づけたのでした。1950年代に、広島市が平和大通りと平和公園に植える樹木の寄付を呼びかけたとき、日本国内のみならず世界中から何千もの種や苗が提供されました。世界中からの支援によって、広島市は、河岸の緑化計画をはじめとして、街の緑化計画に取り組むことができ、その活動は今日まで続けられています。広島市は様々な地域と種のやりとりを通して、長年にわたりたくさんの「緑」の友好関係を築いてきました。

被爆樹木は、いまなお葉を茂らせ、花を咲かせ、実をつけ、証人として生き続けています。これまで、被爆樹木や広島の木々の種や苗を世界に広めようとする多くの有意義な活動が実施されてきました。しかし、大規模で国際的かつ組織的な取り組みはまだありません。

## 目的

より緑豊かな地球にするために、次世代の人々が核の脅威のない世界に生きられるようにするために、過去、現在の戦争犠牲者を追悼するために、あるいは、単純に自分の住む街に平和公園を作るために尽力したいと思うすべての方々に参加していただくことを目指して、国連訓練調査研究所（ユニタール）、ANT-Hiroshima、そして献身的な人々が「グリーン・レガシー・ヒロシマ」という名のもとに集まりました。広島の被爆樹木の種や苗を配布し植えるというその設立趣旨はシンプルで持続可能です。一方、その実施方法は、都市の公園や、植物公園、学校、公共施設、民間施設などに種を植えることから、核施設が存在した可能性がある南アフリカやカザフスタンのような象徴的な場所に植樹することまで、様々な活動が考えられます。中心概念は普遍的で、活動方法は多様なこのイニシアティブは、象徴的な力がある一方、実施は容易です。

このイニシアティブによって、広島は、ユニタールや ANT-Hiroshima のプログラムのために広島を訪れたことがあり、現在は世界中の国々の様々な分野で活躍している何百人もの専門家たちとの絆を深めていくこともできるでしょう。豊かな経験とエネルギーと地域への影響力を持つ彼らの協力を得ることによって、彼らは元研修生同士だけでなく、広島ともつながりを持ち続け、21世紀へのメッセージを伝える広島の大使として活躍してくれるでしょう。このイニシアティブから得られるインスピレーションと教訓はまた、国際連合が取り組む平和と安全保障、気候変動、生物多様性、そして核廃絶を訴える運動にも役立つことと思います。



unitar  
United Nations Institute for Training and Research



## 設立団体

ユニタールは国際連合が誇る管理職研修機関であり、そのプログラムは世界中で何千もの政府関係者、学術関係者、民間企業の幹部を対象に、毎年行われています。広島にある唯一の国際連合の組織として、ユニタールは、元研修生などの専門家の力強いネットワークを生かして、原爆を生き延びた植物界の生存者を守り、そのメッセージを伝える心強い拠点となるでしょう。

ANT-Hiroshima は1989年に設立された NGO で、アジアを中心とした世界的なネットワークを生かし、ヒロシマの経験に基づき、国際協力活動、平和教育活動、平和文化交流、またそれらに関係するイベントなどに取り組み、ヒロシマのメッセージを伝えています。ANT-Hiroshima は、一人一人の力はアリ (ANT) のように小さくとも、世界の人々と協力し連帯することによって大きな平和を実現できると信じています。

## 実施方法

試行期間（2011年7月1日～2012年6月30日）は、ユニタールと ANT-Hiroshima の元研修生が母国あるいは大使館等の外交施設に木を植えることから始め、選ばれた植樹活動にしばって実施します。関心のある研修生は簡単な申込み用紙に記入して申し込みます。申込みが承認された後、種とガイドラインと資料が届けられます。研修生はまた、ユニタールと ANT-Hiroshima が設立する小さなサポートチームを通して、広島市当局、市民、樹木医とも繋がります。それぞれの国における活動費用については、参加者が負担します。

広島の木を植える参加者の共有ホームページを作り、そこに、各国からの経過報告、経験談、植樹方法のヒントやアドバイス、木にまつわる平和関連活動についての助言やその他共有できる挑戦や経験についての情報等を掲載します。

試行期間においては、主にユニタールと ANT-Hiroshima の元研修生のネットワークから参加者を選びますが、将来的には、グリーン・レガシー・ヒロシマは、この世界的な植樹計画に賛同し植樹活動を希望されるすべての公共団体、民間団体に、広く包括的に参加いただくことを目指しています。

お問い合わせ先：

グリーン・レガシー・ヒロシマ コーディネーター

ナスリーン・アジミ([greenlegacy@unitar.org](mailto:greenlegacy@unitar.org))・渡部朋子([green@ANT-Hiroshima.org](mailto:green@ANT-Hiroshima.org))

ユニタール広島事務所

730-0011 広島市中区基町5-44 広島商工会議所ビル

ANT-Hiroshima

730-0012 広島市中区上八丁堀8-14 安芸リーガルビル

<http://www.unitar.org/greenlegacyhiroshima>



unitar  
United Nations Institute for Training and Research

